
ポケットモンスター レグルス

Ferix

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ポケットモンスター レグルス

【Nコード】

N3460Z

【作者名】

Ferix

【あらすじ】

D・H団リーダーであるターナーの世界征服に立ち向かう、主人公のカズキとそのポケモンたちとの話である

少し執筆者の妄想も入ってます。

episode 1 旅の予兆（前書き）

Ferrixです！

基本はゲームをプレイしてるのを基準にしています

初投稿なので下手ですがよろしくお願いします

episode 1 旅の予兆

ここはポケモンと人間が共存する世界

ポケモンと人が協力し合い生きている

ポケモンを使い「悪」をはたらく人間もいる

いままでにもたくさんそんなことあった

俺も2回そんなことがあった

一つはハウエンで、もう一つはトーホクで

チャンピオンにもなったが、そんな器じゃないし、いろんな地方にも行きたい

3

「次はどこいくかな」

「どこに行くの？」

その声が聞こえて目の前が何かで覆われる

「ミドリか？」

「当ったり〜」

こいつはハウエンで住んでいた家のお隣さんだ
同じ年でちょっとうるさい奴だ

「久しぶりだな、いつ以来？」

「うーんと、こおりの島だよね最後」

「そうだったっけ？」

「うん、そんなことよりどこに行くの？」

「他の地方だよ」

「他の地方でもチャンピオン狙うの？」

「まだちゃんと決めてないけど、まあ最終的にはそうなるんじゃないかな」

「どこの地方にするの？」

「ジョウトにでも久しぶりに帰るかな」

「えっ、カズキ君ってジョウト出身なの！？」

「ああ、言っただけじゃなかった。父さんはもともとウツギ博士の助手をしてたんだ。それでその後母さんと俺のふたりでミシロに引っ越したんだ。そしたら父さんはトーホクの研究所を任されてまた引っ越したんだ」

「そうだったんだね」

「ああ、まあそれ以外にもジョウトに行きたい理由はあるんだけどな」

「なにになに？」

「まえにギンノさんがジョウトのシロガネ山に強いトレーナーがいるって聞いてたからさ」

ギンノさんはトーホクのチャンピオンであり、水の都アルトマーレジムのジムリーダーだ。昔、銀色の魔女と言われてたらしい。

「さすがチャンピオンだね、強いトレーナーがいるとすぐに食いつくねえ」

「別にいいだろ」

「悪いなんかいつてないよ、それより私も連れてってよ」

「え、なんで？」

「別にいいでしょ」

「まあ、別にいいけど…」

「ありがとう！じゃあ荷物取りにいかないかね」

「そうだ、トーホクに家あんの？」

「借りれる場所ないからカズキくんのお母さんに頼んで荷物置かしてもらってるんだ」

「今初めてしつたよ…」

「とりあえず荷物取りにいかないかね」
「ああ、そうだな」

くハクジタウンく

「ただいま、母さん」
「お帰りなさい、カズキ」
「おじゃましまーす」
「あら、いらっしやいミドリちゃん。カズキが女の子連れてくるなんて」

「荷物取りにきたただだよ、母さん」

「あら、またどっかにいくの」

「うん、ジョウトにいこうと思ってるんだ」

「懐かしいわね、ジョウト。母さんも行くのかしら？」

「くるの!？」

「冗談よ、母さんは家守らないといけないしね」

「そっか、じゃあちよつと荷物つめてくるよ」

階段を登る二人

このときまだ誰もなにが起こるかは知る由も無かった

episode 1 旅の予兆（後書き）

3日に一度かけるようにいたしますのでお願いいたします

episode 2 船内での出会い (前書き)

なんか…ジュンヨーです…

episode 2 船内での出会い

「準備できたか？」

「できたよ」

「よし、じゃあ行くか」

階段を降り、母に挨拶をつけると二人は外にでた

「カズキ君、どうやって行くつもり？」

「アーシア島からジヨウトのタンバに向かって船がでてるはずだからそれに乗って行くよ」

「じゃあアーシア島に行こう！」

ポケットからボールを取り出し空に向かって投げると、なかからトロピウスとドラドーンがでてくる

「トロピウス！【そらをとぶ】だ！」

「ドラドーンも【そらをとぶ】よ！」

二人は空に上がった

ちなみにふたりの手持ちは

カズキ

トロピウス

ファマイン

フローリア

バフォット

リーフィス

ガブリアス

ミドリ

ドラドーン

エレキブル

ユニサス

タテボーシ

ブーバーン

プラネム

「このままアーシア島までいくぞ」

同時刻 レンジャーベース

「テテレテッテレー、モスギスさん登場！」

「やあモスギスどうしたんだい？」

「ジャッキーに報告があるのです、ななな、なんと！ターナーが動きだしました！」

「それは本当かモスギス！？」

「はあい、これはポウがつかんだ情報なのでしんじるべきでふ！」

「狙いはどこかわかるか？」

「あはい、ターナーはジヨウトを狙ってるようです」

「わかった、モスギスは先にジヨウトにいつていてくれ、俺はナツユキと後から行く」

「了解！」

（戦いがまた始まるのか…）

2日前 ポケモン城

「もう一度このポケモンを使うとはな、いつかの復讐を、恐怖を見せてやる。お前の大切なものがなくなるのはお前のせいだと感じるがいい、ククク…」
冷たいその笑い声は静かに闇に消えていった

現在 アーシア島

「ちょっとチケット買ってこようから待っててくれ」

「私もついていこうか？」

「別にいいよ、お前の方も買ってこようから」

「そう？ありがとう」

そういうとカズキはチケット売り場に向かって歩きだした

(暇だなー、カズキ君ってポケモンのことばかりだなー、ちょっとは見てくれてもいいのに)

チケット売り場から戻ってくるカズキ

「ほら、これ船のチケット」

「ありがとう、いくらだった？」

「あー、別にいらねーよ」

「えっ、いいの？」

「別にいいよ、ほら早く行くぞ」

「う、うん。ありがとう」

船に向かって歩き出すふたり

船に乗り込み部屋を、探す

「にしてもでかい船だね」

「まあ豪華客船だしな」

「そんなお金どこにあったの…？」

「なんか、トレーナーがたくさん勝負しかけてくるからいつの間にな」

「へー、そうなんだ」

そして自分の部屋番号をみつけるミドリ

「あっ、私ここだ」

「俺は隣だ」

「偶然だね!」

「そうだな、とりあえず荷物置いてくるからまた後でな」

「うん!」

部屋に入るふたり

「へー、結構大っきいなこの部屋」

「この部屋は1人部屋にしてはおおきい」

「でてこい、みんな」

ギャーオ

「疲れをとつといてくれよ」

そういうとカズキは部屋をでて隣の部屋をノックする

「おーい、まだか?」

「いま行くー」

そういうと部屋からでてくるミドリ

ミドリは後ろで髪をくくって可愛らしい、一般にオシャレな服をきていた

(うっ、か、可愛い)

「?、どうしたの?」

首をかしげるミドリ

「な、なんでもねーよノノノ　そ、それより早くいこーぜ、お

腹すいてしょーがねーよ」

「そうだね」

そうして船内を歩くふたり

(な、なんか緊張してるし!頑張れ俺!)

「いつみても広いなー」

「そ、そうだな」

「どうしたの?」

「な、なんでもない」

「ふうん」

いろいろ見て回っているとうしろから声が聞こえてくる

「あれ？カズキ？」

ふりかえると見たことがある人がいた

「あなたは、ユウキさん！」

episode 2 船内での出会い（後書き）

コメント待ってまーす

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3460z/>

ポケットモンスター レグルス

2011年12月14日21時50分発行